

教師の不快な態度に関する調査研究 —教職専攻の女子短大生が考える教師像—

川野 司*、平野 香織*

九州女子短期大学専攻科養護教育学専攻、北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1(〒807-8586)

(2010年10月5日受付、2010年11月9日受理)

要 約

本研究は、児童生徒がこれまでに経験した教師の不快な態度に関する実証的な調査を行うとともに、教師の児童生徒への望ましい関わり方を考えるものである。そのために教職を目指す女子短大生を対象にアンケート調査を行い、小中高等学校時代の教師との関係を振り返ってもらった。

その結果、「頭髮や服装に関する注意をしつこくされた」、「正座や立つことを強制させられた」、「特定の児童生徒だけひいきをしていた」、「児童生徒の心身の状況を把握できていなかった」などが教師の不快な態度と認知されていた。

このような教師の不快な態度は、たとえ1度きりであっても、児童生徒の心に拭い去れない思いを残す結果になっている。したがって、教師は日ごろより児童生徒との好ましい人間関係を構築し、不快な態度を与えない指導を行っていくことが大切であるといえる。

1. はじめに

今日、教職員による不祥事が後を絶たず、「飲酒運転事故」、「わいせつ行為」などが頻繁に報道され、児童生徒を巻き込んだ事件・事故が大きく取り上げられ、世間の注目を浴びている。特に児童生徒の自殺は大きな問題となり、2008年は136人の児童生徒が自殺で亡くなっている¹⁾。自殺の背景は学校に関わる要因が大きい場合も見られ、そうした背景に気付いていない教師がいることも予想される。こうした教職員の態度は、児童生徒と保護者に不安を与え、学校と教師に対する信頼感を損ねる結果となっている。

教育現場では、教師と児童生徒との信頼関係を築き上げることが重要である。このような望ましい人間関係を築くためには、教師は児童生徒に的確な指導を行い、ネガティブイメージを与える態度を避けていかなければならない。学校では、教師の指導に素直に従わない児童生徒に手を焼くこともあるが、そうした要因の1つに、教師と児童生徒の信頼関係が築けていないことが考えられる。

高岡昌子(2002)は「教師のネガティブな言動はあまり表面的になりにくい、実際には一度きりのネガティブな言動であっても、子どもに決定的なダメージを与える可能性がある」と述べている²⁾。高岡が述べているように、教師のネガティブな言動が、児童生徒の心

身の成長に大きなマイナスの影響を与えている可能性がある。

筆者は、高校生時代の部活動で顧問教師の言動に傷つき、その教師に対し不信感を覚え、学校に行きたくない気持ちになって、数日間学校を休んだことがあった。筆者は普段学校を休むことは少なく、そのような状況にもめげない性格であった。しかしその出来事が引き金となり、学校を休むようになって、担任と親は心を痛めていた。その出来事があってからは、部活動の顧問とは距離を置くようになり、卒業するまで一言も言葉を交わすことができなかつた辛い経験がある。このように、教師の不快な言動や対応によって、同じような辛い経験をしている児童生徒も少なくないと思われる。教師の態度が児童生徒の成長に大きな影響を与えることを考えれば、教師の児童生徒への態度を改めて見つめ直すことが重要である。そこで教師の児童生徒に対する態度に関する実証的データをもとに、教師の態度のあり方を考えていくことにした。

今回、養護教諭を目指す女子短大生に、小中高等学校時代の教師との関係を振り返ってもらった。アンケート調査では、教師の不快な態度の経験について問うとともに、児童生徒に対する教育者としての望ましい態度を探究した。

II. 研究の目的

本研究の目的は、児童生徒が小中高等学校のときに経験した教師の不快な態度（行動・言動・対応）とその当時の思いや考えを想起し、児童生徒に対する教師態度の改善点を探るとともに、望ましい教師像について考えることである。

III. 研究方法

(1) 予備調査

予備調査の対象は、福岡県北九州市の九州女子短期大学専攻科養護教育学専攻に在籍する1年生10人、2年生15人の合計25人を対象とし、無記名で自由記述のアンケートを実施した。アンケート用紙の配布は授業時間に行い、その場ですべて回収した。

表1 自由記述アンケートの内容

- | |
|--|
| <p>① あなたが小学・中学・高校生の時、先生から言われたりされたりしたことで嫌だと思ったことはどんなことでしたか？</p> <p>② それはどのような場面で起こったことですか？</p> <p>③ その時あなたは、その先生に対してどのような気持ちや思いを持ちましたか？</p> <p>④ その時あなたは、その先生に本当はどのように接してほしかったのですか？</p> |
|--|

この自由記述の回答をもとに本調査用のアンケート用紙を作成した。そして作成したアンケート用紙の回答内容について、不明な箇所や回答しにくい項目はないかどうかを確かめるため、再度、専攻科生25名に回答をしてもらい、質問内容の修正を行って、下記の本調査

のアンケート用紙を完成させた。

教師の不適切な行動に関するアンケート

本研究では、教師の不適切な行動に関する意識調査を行っております。お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケートにご協力をお願いします。

()科 学年()年 年齢()歳

[問1] 小学・中学・高校生ときの教師との関わりの中で、次の01～25の項目をあなたや友人が教師からされて不快と感じた経験があるかないか、1～4の数字に○を付けてお答えください。

[4…経験がある・3…やや経験がある・2…あまり経験がない・1…経験がない]

教師の行動について

- | | | | | |
|-------------------------|---|---|---|---|
| 01. 殴る、蹴るなどの体罰を伴う叱責をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 02. 暴力的発言で威嚇する叱責をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 03. 過度でしつこい叱責をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 04. 正座や立つことを強制させられた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 05. 物に当たられた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 06. 皆の前で集中的に叱責をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 07. 頭髪や服装に関する注意をしつこくされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 08. セクハラと感じるようなことをされた | 4 | 3 | 2 | 1 |

教師の言動や対応について

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 09. 「人間のくず」「やる気がないなら学校辞めろ」などの無神経な発言をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. 児童生徒を「おい」「お前」や嫌と感じる呼び方をしていた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11. 将来の夢を砕くような発言をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12. 皆の前で気にしていることを言われた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13. 進路指導で軽蔑した発言をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14. 相談しに行ったが不十分な対応をされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15. 自分の考えを押し付けてきた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16. 外見だけで判断された | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17. 兄弟や友達と比較された | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18. クラスがうるさいのを自分のせいとされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19. 特定の児童生徒をひいきしていた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20. 技術力や能力での差別があった | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21. 男女差別があった | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22. なんでもクラスの連帯責任にされた | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23. 先生が悪いのに、それを認めようとしなかった | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24. 児童生徒の心身の状況を把握できていなかった | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25. いじめを放任していた | 4 | 3 | 2 | 1 |

[問2] 問1の01～25の項目で、あなたが教師からされて最も不快だと感じるものはどれですか。番号でお答えください。(複数回答でもかまいません。)

[問3] 問1の01～25の項目の内容以外で、あなたが教師からされて不快だった行動・言動・対応はどのようなことでしたか。

[問4] このような行動・言動・対応をする教師を、小学・中学・高校生当時のあなたはどのように思っていましたか。

[問5] 教職を目指している今、教師がこのような行動・言動・対応をすることについてあなたはどのように思いますか。

ご協力ありがとうございました。

(2) 本調査

本調査の対象は、福岡県北九州市の九州女子短期大学の養護教育科に在籍する1、2年生と専攻科に在籍する1、2年生全員を対象とした。アンケート調査は授業時間を使って学生に直接協力依頼をして、所要時間を20分設け、アンケート用紙はその場で回収した。

・実施時期

平成22年7月12日（月曜日）～7月16日（金曜日）

・倫理的配慮

アンケート調査にあたって、対象者に対し「自由意思の尊重」「無記名記述」「本研究以外では使用しない」ことを説明し、了承を得て実施した。

IV. 結果

アンケートによる調査結果は次の通りであった。なお、アンケート用紙の配布は授業に参加した126名に配布し、その場ですべて回収した。回収率は100%、平均年齢は19.7歳であった。

(1) 問1の結果について

[問1] 小学・中学・高校生のとときの教師との関わりの中で、次の01～25の項目をあなたや友人が教師からされて不快と感じた経験があるかないか、1～4の数字に○を付けてお答えください。

[4…経験がある・3…やや経験がある・2…あまり経験がない・1…経験がない]

・教師の行動について

教師との関わり項目	経験の有無			
	4. 経験がある	3. やや経験がある	2. あまり経験がない	1. 経験がない
01. 殴る、蹴るなどの体罰を伴う叱責をされた	11%	19%	22%	48%
02. 暴力的発言で威嚇する叱責をされた	10%	18%	22%	50%
03. 過度でしつこい叱責をされた	10%	17%	24%	49%
04. 正座や立つことを強制させられた	27%	21%	17%	35%
05. 物に当たられた	22%	18%	20%	40%
06. 皆の前で集中的に叱責をされた	19%	21%	25%	35%
07. 頭髪や服装に関する注意をしつこくされた	21%	28%	21%	30%
08. セクハラとを感じるようなことをされた	2%	13%	15%	69%

問1については「経験がある」と「やや経験がある」の回答を合わせて「経験がある人数」とし、「あまり経験がない」と「経験がない」の回答を合わせて「経験がない人数」として教師との関わりについて考えることにした。

女子短大生が小学生・中学生・高校生のときに不快と感じた教師行動について、経験した人数が最も多かった行動は「頭髪や服装に関する注意をしつこくされた」の49%（62名）で、2番目に多かった行動は「正座や立つことを強制させられた」の48%（61名）であった。経験した人数が最も少ない行動は「セクハラと感じるようなことをされた」の15%（19名）で、2番目に少なかった行動は「過度でしつこい叱責をされた」の24%（34名）であった。

・言動・対応について

教師との関わり項目	4 経験 がある	3 やや 経験 がある	2 あまり 経験 がない	1. 経験 がない
09. 生徒を「おい」「お前」や嫌だと感じる呼び方をしていた	16%	21%	21%	40%
10. 「人間のくず」・「やる気がないなら学校辞める」などの無神経な発言をされた	6%	14%	17%	63%
11. 将来の夢を砕くような発言をされた	5%	17%	25%	53%
12. 皆の前で気にしていることを言われた	5%	17%	23%	54%
13. 進路指導で軽蔑した発言をされた	5%	11%	24%	60%
14. 相談しに行ったが不十分な対応をされた	9%	20%	25%	46%
15. 自分の考えを押し付けてきた	11%	22%	23%	44%
16. 外見だけで判断された	9%	21%	21%	49%
17. 兄弟や友達と比較された	6%	14%	17%	63%
18. クラスがうるさいのを自分のせいにされた	5%	3%	17%	75%
19. 特定の生徒だけひいきをしていた	22%	30%	17%	31%
20. 技術力や能力での差別があった	12%	25%	19%	44%
21. 男女差別があった	10%	21%	25%	44%
22. なんでもクラスの連帯責任にされた	10%	25%	27%	38%
23. 先生が悪いのに、それを認めようとしなかった	21%	21%	26%	32%
24. 生徒の心身の状況を把握できていなかった	16%	29%	21%	34%
25. いじめを放任していた	9%	17%	17%	57%

女子短大生が小学生・中学生・高校生のときに不快と感じた教師の言動・対応について、経験した人数が最も多かった言動・対応は、「特定の生徒にだけひいきをしていた」の52%（66名）で、25項目の中でも一番多かった。2番目に多かった言動・対応は、「生徒の心身

の状況を把握出来ていなかった」の45% (57名) で、3番目に多い言動・対応は、「先生が悪いのに、それを認めようとしなかった」の42% (52名) であった。

経験した人数が最も少ない言動・対応は、「クラスがうるさいのを自分のせいにされた」の8% (10名) で、2番目に少なかった言動・対応は、「進路指導で軽蔑した発言をされた」の16% (20名) であった。

(2) 問2の結果について

[問2] 問1の01~25の項目で、あなたが教師からされて最も不快だと感じるものはどれですか。番号でお答えください。(複数回答でも構いません。)

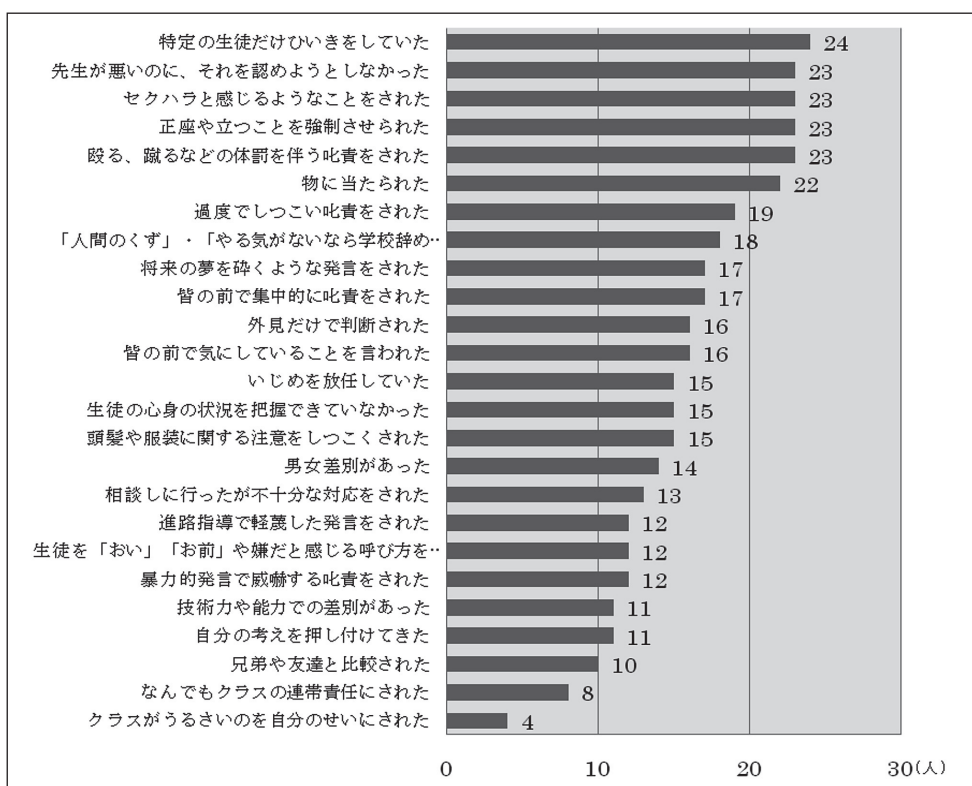


図3 教師からされて最も不快だと感じたもの

図3は、教師の行動・言動・対応について、最も不快だと感じた25の内容項目を表したグラフである。問2の質問は複数回答でもよいとした。

最も不快だと感じた内容項目は、「特定の生徒だけひいきをしていた」の24名 (19%) で、2番目に「殴る、蹴るなどの体罰を伴う叱責をされた」、「正座や立つことを強制させられた」、「セクハラと感じるようなことをされた」、「先生が悪いのに、それを認めようとしなかった」が4項目とも23名 (18%) で続いていた。3番目は「物に当たられた」が22名

(17%)であった。

一方、教師の行動・言動・対応について不快だと感じた人数が少なかった内容項目は、「クラスがうるさいのを自分のせいにされた」の4名(3%)が最も少なく、次に不快だと感じた人数が少なかった内容項目は、「なんでもクラスの連帯責任にされた」で8名(6%)であった。

(3) 問3の結果について

[問3] 問1の01~25の項目の内容以外で、あなたが教師からされて不快だった行動・言動・対応はどのようなことでしたか。

問3の回答は、予備調査では得られなかった細かな意見が多くあがった。最も多かった内容が「問い詰め、勘違い、疑い、責任転嫁、決め付け行為」で、次いで「私たちの意見や言い分を聞き入れてくれない」であった。

またこの問の回答は自由記述だったので、その内容を下の「教師からされて不快だった行動」(表2)、「教師からされて不快だった言動」(表3)、「教師からされて不快だった対応」(表4)の3つの類型にまとめた。

表2 教師からされて不快だった行動

・携帯没収されて中身を見られた	・何かあるとすぐ親に報告(家庭訪問)
・授業放棄	・生徒のいじめに加担していた
・クラスから無理やり追い出された	・無視された
・友達が必要以上に激しく叱られている姿を見たこと	

表3 教師からされて不快だった言動

・過度の期待	・自分の自慢話ばかりしていた
・名前を間違えられた、覚えてもらえなかった	

表4 教師からされて不快だった対応

・人を小ばかにするような見下し行為	・マイナス志向の考えばかり持っていた
・機嫌がそのときの気分左右されていた	
・児童生徒の意見や言い分を聞き入れてくれない	
・犯人扱い、問い詰め、勘違い、疑い、責任転嫁、決め付け行為	
・自分の価値観だけで判断して、児童生徒の考えを否定された	

(4) 問4の結果について

[問4] このような行動・言動・対応をする教師を、小学・中学・高校生当時のあなたはどのように思っていましたか。

問4の回答は、教師に対しての攻撃的な言葉や馬鹿にした言葉が多く見られたが、指導の改善点に関する意見も多く見られた。そのため、回答の内容を下の「学校・教師への印象」(表5)、「児童生徒への配慮」(表6)、「消極的肯定」(表7)の3つの類型にまとめた。

表5 学校・教師への印象

- | |
|--|
| ・嫌い、最低、ムカつく、面倒くさい、ウザイ、迷惑だ、死んでしまえばいいのと思った |
| ・人として手本にはしたくない、こういった大人にはなりたくないと思った |
| ・自分勝手に大人気ない。先生もお子様だなと思った |
| ・人として、先生として、非常識でおかしいと思った |
| ・会いたくない、学校に行きたくないと思った |
| ・役に立たない先生と思った |
| ・先生が怖いと思うようになった |
| ・先生として信頼できないと思った |
| ・教師がそんなに偉いのかと思った |
| ・可哀想な人間と思った |

表6 児童生徒への配慮

- | |
|--------------------------------------|
| ・先生にとって自分はどうでもいい存在なのかと感じた |
| ・自分の行動も悪いが、やりすぎではないのかと疑問に思った |
| ・私たちの考え方を尊重する態度があってもいいと思った |
| ・教師が生徒の立場になって行動・言動に責任を持って対応してほしいと思った |
| ・していいことと悪いことの区別ぐらいしてほしい |
| ・自分の行動の背景にあるものに気づいてほしかった |

表7 消極的肯定

- | | | |
|--|-------------|-------------|
| ・大人の人だから仕方ないと思った | ・普通だと思っていた | ・別に何も感じなかった |
| ・自分も悪かったから仕方ないと思う | ・相手にしていなかった | |
| ・怒られても同じ行動を繰り返していたから、逆に怒られたいというか相手にしてほしかった | | |

(5) 問5の結果について

[問5] 教職を目指している今、教師がこのような行動・言動・対応をすることについてあなたはどのように思いますか。

問5は問4に類似した回答が多くあったが、将来自分自身が教職に就くために留意しなけ

ればならない内容についての回答も見られた。また教師に対して厳しい目で見える意見もあった。この回答を下の「今の教師に求めるもの」(表8)、「消極的肯定を含む意見」(表9)、「女子短大生が目指す教師像」(表10)の3つの類型にまとめた。

表8 今の教師に求めるもの

- ・何か理由があるにしろ、けじめをつけてきちんと心に溜めて適切な態度を示すのが教師だと思う。
- ・愛情と意味のあることならよいと思うが、そのような行動をとった理由を生徒自身にきちんと説明することが大切だ。
- ・人間だから間違いを起こすことがあると思うけど、そのときはきちんと認めて謝る姿勢をとることが大切だ。
- ・教師自身にも何らかの問題があるので、教師の心のメンテナンスも重要。
- ・あきらかに度を越した叱りは、周囲の大人も注意すべきだと思う。
- ・忙しい中で問題が起こると適切な対応が難しくなるかもしれないが、教師は生徒の人生にとっても影響を与える職業なので、それを常に自覚して手本になるような行動取らなければならない。
- ・子どもだからといって見下すのではなく、生徒の目線に立って1人1人の意見や価値観を尊重する姿勢で接することが大切。
- ・子どもの外見や短所だけで判断するのではなく、長所を見つけて評価してあげることが大切である。

表9 消極的肯定を含む意見

- ・厳しく指導して、悪いことはきちんと言う…それは教師の仕事で大切で必要なことだと思う。
- ・度の過ぎることはよくないと思うが、ある程度のことは逆に必要だと思う。今の世間で体罰と言われている事が、私たちが小・中・高校生のときは当たり前にあった事だったので、今が優しすぎると思うし、保護者や世間も過保護ではないかと思う。
- ・「虐待」と認識するボーダーラインが年々低くなっているが、生徒に非があるのであれば仕方ないと思う。
- ・教師も人間であって、このような行動も教育の一つだから仕方ないと思う。
- ・最近は過保護なモンスターペアレントなどが増え、教師の行動に世間が過敏になりがちだと思う。

表10 女子短大生が目指す教師像

- ・今の教師は「怒る」と「叱る」を間違っていると思う。指導上「叱る」ことは大切なので、私は叱れる教師になりたい。
- ・自分自身が反面教師にならないように心掛けたい。
- ・養護教諭になったら赴任先にもこのような教師がいると思うので、自分は子どもの味方である教師になりたい。
- ・心を正して取り組まなければいけないと思うが、感情的になってしまうこともある。冷静になったときは謝りたい。研修会や仲間同士の勉強会に積極的に参加しながら、常に自分を見つめ、正していきたい。
- ・自分が生徒の立場だった時に傷付いたりしたので、教師の立場になったら同じ繰り返しをしない。
- ・実際になったら大変だと思うけど、教師というのはそのような職だから、覚悟して入らなければならない。
- ・児童・生徒を一人の人間として見る。そして将来の日本を担う社会性に富んだ人格を育成したい。
- ・モンスターペアレントが増えているため、こういった大人に立ち向かえる教師になりたい。

V. 考察

今回のアンケート調査には熱心な回答内容が多かった。記述項目を設けていないことに対して、実際自分はどんなことをされて傷ついたかなどが明確に書いてあり、補充するデータを得ることができた。

(1) 児童生徒が教師からされて不快と感じた経験について

・教師からされて不快と感じた行動について

問1で最も経験した人数が多かった行動は、「頭髪や服装に関する注意をしつこくされた」であり、約5割の学生が経験していた。児童生徒の生活面の乱れは学校の乱れをもたらす、地域社会からの評価を下げるという危機意識が働いているものと思われる。そのために教師は必要な注意を行い、児童生徒の服装などの生活面を強調していく傾向がある。しかし必要以上の執拗な注意や強制に訴えようとする教師がいるため、児童生徒は嫌な思いをして、教師に従わなかったりすることもある。学校の規則は、児童生徒が健全な学校生活を営み、より良く成長・発達するためのものであり³⁾、学校は規則を児童生徒の発達段階と社会とのつながりの視点から積極的に見直すことが必要である。そのため教師は児童生徒の信頼を失わないように留意し、学校の生活面の指導を整えていかなければならない。

また、教師からされて不快と感じた行動には、体罰に類する内容が多く含まれていた。一般的に体罰は、殴る蹴るなどの暴力行為であると思われがちだが、体罰は肉体や精神に苦痛を与えるすべての言動と行為である。

問1の回答で「殴る、蹴るなどの体罰を伴う叱責をされた」、「暴力的発言で威嚇する叱責をされた」という児童生徒は約3割程度で、筆者が予想していたよりも人数が少なかった。これは暴力行為が体罰であると世間で強く認識され問題になっているため、教師も世論に敏感になって行動していることが、体罰減少に繋がっていると思われる。また「セクハラと感ずるようなことをされた」も同様に、特に女子生徒へのスキンシップに対しては、教師も気を使って指導しているため、約8割以上の女子短大生は経験がないと回答している。

しかし、「正座や立つことを強制させられた」、「物に当たられた」、「皆の前で集中的に叱責をされた」は、約4割が経験している。この3項目は体罰に含まれる内容であるが、体罰として世間ではあまり認識されていない部分でもある。そのため教師はこのような行動を罪の重いものとあまり認識しないまま、日常的に児童生徒への指導を行っていると思われる。

・教師からされて不快と感じた言動や対応について

問1で経験した人数が最も多かった言動や対応は、「特定の児童生徒をひいきしていた」で約5割が経験していた。荒木肇（1999）は「子供はひいきに敏感であり、先生たちはいつも子供に見られている。」³⁾と述べており、児童生徒は教師の1つひとつの行いを常に観察しながら学習に取り組んでいることがうかがえる。そのため教師は常に児童生徒の目線や言動から自分の行動を考え、個々の児童生徒に応じた対応をすることが大切である。

ひいき行為と同様に考えられるものは、約3割の女子短大生が経験している「技術力や能力での差別があった」、「男女差別があった」、「外見だけで判断された」という行動である。そしてさらには約2割の女子短大生が経験あると回答している「兄弟や友達と比較された」という差別的な行為もあった。先ほど述べたように、児童生徒は教師の行動をよく観察しているのである。教師から差別的な扱いや比較をされたと感じている児童生徒が現にいることは、教師自身がそうした行動を無意識に行っていることの現れでもある。

次に、「生徒の心身の状況を把握出来ていなかった」は、約4割の女子短大生が経験している。現代の児童生徒は心身に様々な問題を抱えており、それにいち早く気付いていくことが教師としての重要な役目である。しかし近年いじめや児童虐待に関係する事件が多く発生しており、教師が児童生徒の心身の状況を把握出来ていなかったために、最悪な結果になる事件も少なくない。このようなことを防止するためにも、教師は児童生徒の日々の成長と変化に目を配っておかなければならない。

また、「いじめを放任していた」は、約3割が経験あると回答しており、いじめに気付いていない教師が多くいることがうかがえた。これは教師の不快な言動や対応の内容項目の中

の「生徒の心身の状況を把握出来ていなかった」と繋がりがあると考えられる。教師はいじめから目を背けているわけではないが、児童生徒からのサインに気付いていないため、いじめの発見が遅れる事態が起きていると思われた。

「生徒を『おい』『お前』や嫌だと感じる呼び方をしていた」は約3割であった。教師から「おい」「お前」やあだ名で呼ばれることはあったが、別に嫌ではなかったという消極的で肯定的な意見も多かった。

「クラスがうるさいのを自分のせいにされた」は約1割以下で、全体で最も少なかった。この内容項目に似た「生徒への疑いや犯人扱いされた」という教師の対応に関する不満の内容が、[問3]の自由記述の回答で多く見られた。そのため、クラスがうるさいのを自分のせいにされたという質問よりも、先生に疑われたという点を重要視した質問内容の方よいと考える。

(2) 児童生徒が教師からされて最も不快だと感じる行動・言動・対応について

児童生徒が教師からされて最も不快だと感じる行動・言動・対応で最も回答が多かったのは、「特定の児童生徒をひいきしていた」であった。この項目は、問1の質問で最も順位が高かった内容である。つまり特定の生徒をひいきすることは、児童生徒が最も不快に感じる教師の行動・言動・対応であるが、教育現場で教師が特定の児童生徒をひいきする現状は、改善されていないということが明らかになった。

次に「殴る、蹴るなどの体罰を伴う叱責をされた」、「正座や立つことを強制させられた」、「セクハラとを感じるようなことをされた」が3項目とも23人(18%)であり、「物に当たられた」が22人(17%)で続いている。これら4項目は問1で述べたように、体罰に類する内容である。児童生徒は体罰をする教師を不快に感じ、このような行動をされることで、とても傷ついていることが分かった。特にセクハラに関する項目は、問1の回答では経験がある学生は少なかったが、問2では不快に感じる女子短大生が非常に多かった。このアンケートは女子に対して行った結果なので、セクハラという言葉にとっても敏感で、実際にされたら深く傷つくということがはっきりうかがえた。

(3) 01～25の項目の内容以外で、教師からされて不快だった行動・言動・対応について

25の内容項目以外で、教師からされて不快だった行動を記述形式でとった結果、教師からされて不快だった行動・言動・対応は、叱責や注意の場面でばかり起こっているのではなく、普段の児童生徒との何気ないやり取りから起こることも多々あることが明らかになった。

・教師からされて不快だった行動

不快だった行動の中で最も多くの回答があった内容は、「友達が必要以上に激しく叱られている姿を見たこと」であった。教師の叱り方は、その方法によって児童生徒に大きなダ

メッセージを与えることになる。叱られる対象が目目の友人であり自分には関係なくても、周りの児童生徒は決していい気分ではない。それほど教師の叱り方は影響力があり、児童生徒に恐怖や威圧感を与えているということが分かる。

また「生徒のいじめに加担していた」という回答は、教師としての人格を問われる行為であり、決して起こってはならないことである。しかし2006年に、福岡県で担任教師がいじめを誘発する発言をしたことが発端となり、クラス内でのいじめが発生し、1人の生徒が自殺に追い込まれた事件が起こっている⁴⁾。この事件で教師のいじめに対する認識の甘さが明らかになり、児童生徒と保護者および社会に大きな不信感を与える結果となった。教師はいじめを防ぐ立場にありながら、いじめを助長し生徒を苦しめ、自殺を未然に防ぐことができなかったのである。そのため教師は自分の立場をきちんと理解し、生徒の生命を守る立場に続けなければならない。

・教師からされて不快だった言動

不快だった言動では、「過度の期待」があり、この内容はこれまでにない珍しい回答であった。児童生徒を期待することは、成長にもよい刺激を与え、教師の印象もよくなると思われるが、回答の中には、教師の過度の期待が重荷となる児童生徒もいることが分かった。教師の期待に応えられるのかという不安を抱え、こうした期待を不快に感じている児童生徒がいることを、教師は理解しておくことが大切である。

・教師からされて不快だった対応

教師の不快な対応では多くの回答があり、「犯人扱い、問い詰め、勘違い、疑い、責任転嫁、決め付け」、「児童生徒の意見や言い分を聞き入れてくれない」、「自分の価値観だけで判断して、児童生徒の考えを否定された」といった内容が特に多かった。教師は児童生徒に対して「疑いや決めつけ」、さらには「犯人扱いをすること」は特に意識をもって注意することが重要である。こうした行為は、児童生徒を受け入れておらず、信頼しようと向き合っていないことの表れであるといえる。そのため児童生徒は、教師に対して不快感を抱き、教師を受け入れなくなってしまうと考えられる。最悪の場合には、不登校へと陥っていくものと考えられる。

(4) 不快な行動・言動・対応をする教師を小学・中学・高校生当時はどのように思っていたかについて

女子短大生は、小学・中学・高校生当時、不快な行動・言動・対応をする教師を嫌いや苦手と認識しており、教師のこうした不快な態度は、児童生徒に恐怖感や不信感を与えていることが明らかになった。また、「死ねばいいのに」などの殺意の感情を抱く生徒もおり、教

師の不快な態度に対する不快感の強い表れを感じた。そして不信感の表れは、特定の教師に対してだけ向けられるのではなく、学校や一般教師にまで向けられていた。「学校に行けば教師がいる」という理由から、「学校に行きたくない」という思いに至った児童生徒が多くいたことが明らかになった。実際に不登校になったという学生もいた。

このような教師に対して児童生徒は、なぜ自分を傷付けるのかと疑問を抱き、教師に児童生徒の考えを尊重する態度と、教師の行動・言動・対応一つひとつに責任を持って指導してほしいと求めている。

しかし一方では、教師の不快な行動・言動・対応を「仕方ないこと」、「当たり前のこと」だと思い、半ば諦め気味に容認する考えを持っている児童生徒がいることが分かった。

(5) 教職を目指している今、教師がこのような行動・言動・対応をすることをどのように思うかについて

この内容に関して、現在の教師への改善点が多くあげられていた。教職を目指す学生が考える教師に求められる資質能力は、児童生徒一人ひとりの気持ちを理解する力であり、物事を児童生徒の視点から捉えて、児童生徒を尊重する態度や姿勢で接することである。また周りの教職員のサポートと、教師自身の日頃の心のメンテナンスも重要と考えられる。そして教師は、児童生徒の人生に大きな影響を与える立場であることを自覚し、常に自己の行動・言動・対応に責任を持って指導していかなければならない。

しかし、現代の学校教育は教師の態度一つひとつが注目されており、学校は児童生徒に対し過保護すぎるといった意見もあった。児童生徒の悪いことを厳しく指導することは、教師として重要な役目であり、体罰に類する行為もある程度は許容してもよいという考えの女子短大生もいた。

これから教職を志向する者は、児童生徒の味方であり続けられる教師を目指さなければならない。そのためには先に述べたように、物事を児童生徒の視点から捉えて一人ひとりの理解を深めつつ、児童生徒を尊重する姿勢で接することが大切である。それと同時に、常に自分自身の行いを見つめ直すことが必要である。そのためには、さまざまな経験を大切にし、教師の自覚を高めるために自己研鑽を継続していくことが重要である。

VI. まとめ

教職を目指す女子短大生が、小学生・中学生・高校生のときの教師態度の中で最も嫌っていたのは、「特定の生徒をひいきすること」であった。しかし、実際の学校現場で教師のひいき行為は改善されておらず、教師のひいき行為によって傷つく児童生徒が未だに多くいるということが明らかになった。また児童生徒は、教師から「疑い、決め付け」をされることを非常に嫌っており、これによって教師に対して強い不快感を抱き、教師を受け入れなく

なってしまうと考えられる。

そして不信感は、特定の教師に対してだけ向けられるのではなく、学校全体への印象として捉えられ、児童生徒の不登校の原因に繋がるということが分かった。このようなことに対して、児童生徒の考えを尊重する態度を養い、行動・言動・対応一つひとつに責任を持って指導してほしいと求めている。

教職を目指す女子短大生が考える教師像は、物事を児童生徒の視点から捉え、一人ひとりの理解を深めて、児童生徒を尊重する姿勢を持った教師である。それと同時に、常に自分自身の行いを見つめ直していくことと、教師自身の日頃の心のメンテナンスが必要である。しかし一方では、学校は児童生徒に対し過保護すぎるという意見も少なからずあり、児童生徒の悪い面を厳しく指導することは、教師の重要な役目であるという考えも考慮しなければならぬ。

VII. おわりに

今回の研究で、教師の態度は自分では気付いていないかもしれないが、児童生徒に不快な思いを抱かせるものが多くあり、それらは児童生徒に大きな影響を与えているということが分かった。教師はそうした事実を認識し、児童生徒が気持ちのよい学校生活を送れるように留意するとともに、児童生徒理解を深めていくことが何よりも重要である。

注

- 1) 文部科学省『平成21年度文部科学白書』文部科学省 2010年 130頁
- 2) 高岡昌子「短期大学生が再生した各発達の時期における教師のネガティブな言動について」『奈良佐保短期大学紀要』10巻 2003年 49-54頁
- 3) 荒木肇『子どもに嫌われる先生 新しい授業 これからの教師像』並木書房 1999年 122頁
- 4) 西日本新聞「社説」2006年10月17日朝刊

参考文献

- ・飯田稔『信頼される先生 敬遠される先生』2001年 学陽書房
- ・飯田稔『教師のちょっとしたマナーと常識(新版)』2001年 学陽書房
- ・飯田稔『好かれる先生 嫌われる先生』1998年 東洋館出版社
- ・原田恵子「教師のあり方に関する一考察 ―学生の声をもとに―」『日本赤十字秋田短期大学紀要』6巻 2002年 19-22頁
- ・竹内史宗、「教育心理学と実践活動 子どもは「叱り」をどのように感じているか」『教育心理学年報』34巻 1995年 143-149頁

-
- ・中本浩輝、「高校生における教師に対する信頼感と学校適応間の関係」『学術研究紀要』35巻 2007年 1-13頁
 - ・川上壮、「中学校における担任教師の行動が教師と生徒との人間関係に及ぼす影響」『日本教育心理学会総会発表論文集41』1999年 352頁
 - ・安田勉、「体罰体験とその意識 ー大学生の意識調査からー」『青森県立保健大学紀要』2巻 2003年 151-162頁
 - ・杉山緑、「教育学部生の体罰に関する考察(4)」『山口大教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』9号 1998年 1-14頁

For Research on Teacher behavior nasty behavior - Image of the teacher thinks female women junior college students majoring in teaching -

Tsukasa KAWANO*, Kaori HIRANO*

Department of School-Nursing , Kyushu Women's Junior College

1-1Jiyugaoka Yahatanishi-ku, Kitakyushu-Shi Fukuoka 807-8586 Japan

Abstract

This study is about child student relations with a teacher. It is an empirical investigation about unpleasant actions, speech and behavior, regarding the correspondence between the teacher and the student who experienced the unpleasant situations.

It decided to look back on the relation between the teacher and the grade-schooler age, the junior high school age, and the high school student age for that for Student at Women's Junior College that aimed at becoming a teacher.

As a result, the teacher's action and correspondence were acknowledged as "Attention concerning the hairstyle and clothes was persistently done from the teacher.", "The compulsion of sitting straight and standing up was made from the teacher", "Only a favorite child student was given preferential treatment", "Child student's mind and body's situation was not able to be understood", etc. or other experiences of the teacher's unpleasant actions were felt by the student.

These kinds of action, speech and behavior, unpleasant of such a teacher, have resulted in leaving a permanent image on the students mind, even if only experienced one time.

Therefore, it is important for the teacher guide to always build up a desirable interpersonal relationship with the child student, and to give neither an unpleasant action, and behavior nor correspondence to him or her.

Keywords:Offensive attitude of teachers／Teacher-student relationships／Expectations for teachers